

はじめに

ノースカロライナ州アシュビルで写真家として活躍した日本人「ジョージ・マサ」の伝記が二〇二四年にグレート・スモーク山脈国立公園を支援するNPOから出版された。東京や静岡での現地調査を踏まえアシュビルに来るまでの前半生も明らかになった。マサの本名は遠藤章二で一九〇三年に旧制静岡中学を卒業後、一九〇六年に渡米し、一九一四年までシアトルやオレゴン州ポートランドで様々な仕事をこなしながら、日系人野球クラブ「ミカド」で活躍していた。だが、「やま」と呼ばれた経緯については触れられていないので、ここで明らかにする。

静岡と東京での遠藤章二

伝記著者マッキーは遠藤が静岡出身で富士山や南アルプスに親しんでいたから、グレート・スモーク山脈に関心を抱いたと推察し

ている。富士山は彼の実家（現葵区中町）から見え、一八八九年二月に静岡まで開通した東海道本線で、一八八三年に開削された御殿場登山口に達することができた。実際、一九〇九年の山岳誌で、富士登山の実績があったからポートランドの山岳会に入会できた。一方で、小島烏水に報告している。一方で、実家近くの賤機山や八幡山からは南アルプス（写真1）が望めるがアクセス困難である。

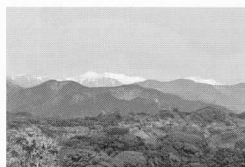


写真1 八幡山からの南アルプス（左から茶臼岳、上河内岳、聖岳、赤石岳）（著者撮影）

卒業後一九〇六年五月に横浜を発つまで、遠藤は東京で暮らしていたので、この期間に登山を始めた可能性が高い。一九〇五年一月に留学のためサンフランシスコに渡ったが送還され、三月には明治大学に入学している。同年一〇月には小島を会長として日本山岳会が設立され、その「創期会員名簿」に

遠藤が載っている。「創期会員」の「多くは発起人の中の誰かと人的関係により入会したと考えて間違いない」と南川は記しているが、遠藤と発起人七名との接点は見当たらない。だが、最年長の発起人城数馬が東京市議会議員で弁護士であったので、静岡市会議員で弁護士であった遠藤の養父と知り合いであった可能性が高い。また、養父の提案で入学した明治大学には城数馬の薦めで山岳会会員になった木下友三郎が講師（後に初代学長）を務めていた。

一九〇六年の渡米と一九〇九年のレーニア登山

一九〇六年の山岳誌の会員動静欄に、「会員清澤巳未衛氏、同遠藤章二両氏は、前後相踵いて、米国シアトルへ、林業その他の視察のため、渡航せられしが、遠からぬうち、同国ロッキークラブの組織、事業、現在等に就き、調査を遂げられ、参考として、本会に報告せらるる約あり」と記されている。清澤は「一九〇五年木曾山林学校生の時、木曾御嶽山で小島と出会ったのが縁で、翌年、小島は穂高町の清澤宅に泊まり、燕常念登山」と記され、小島との出会いが縁で山岳会に入会している。

遠藤は林業視察も「ロッキークラブ」調査もしなかったが、アシュビルでは知人にコロラド大学で鉱山工学を学んでいたと述べていることから、鉱山工学を学びながらロッキークラブの山々を探索したいという思いで渡米したと理解できる。だが、遠藤はシアトルに留まり、山岳誌一九〇七年六月号の会報に、「在シアトルの会員、遠藤章二氏より、筆者（小島）に宛てたる来信」として、シアトルの図書館で山岳図書を調べたところ、「登山術の書など、一向見当り不申候」と述べる一方、「シアトルの旭新聞」で「山岳を鼓吹いたす決心」で「只今ワシントン州、オレゴン州、キヤリフォルニア州、此の三州の山岳美論の起草中」と記している。この調査結果が掲載されたのか不明であるが、山岳誌一九〇九年一月号の「会員登山報」に「在米国ポートランド、オレゴン会員遠藤章二氏は、本年の夏（八月一二日）北米の高山レーニアの絶頂を極められ、山頂に備へ付けある記名簿に最初の邦人登山家として記名し、且つ日本山岳会の肩書を録せられたり」と記されている。さらに「暇さえあれば、山研究いたし居候ものから、友人ども、小生の名を呼ばずして『やま』と申居候故、それなりに『耶麻』という号を用い居候」と述べている。さ

らに、「本年二月彼地オレゴン」の山岳会マザーマ倶楽部 Mazama Club 会員として登録せられたり」とし、小島は「本会成立以来会員にして外国の山岳会に入会を許可されたるものも、恐らく氏を以て始めと為すべきか」と評価している。

この遠藤の報告から、「やま」と呼ばれた経緯が分かる。さらに、山岳誌一九二〇年六月号には「山岳会第三大会にタコマ富士登山写真出品」と記述され、その陳列品短評には「遠藤章二氏の写真は流石氷河のある山はと思った。網の付いた杖の形は面白い」と評されている。

レーニア山登山計画

続く、山岳誌一〇月号には、一九〇九年の登頂記の原稿が、風邪や野球をしているときのデッドボールの怪我で遅れていることを詫び、この夏自分は登山できないので、次のような「旭新聞」主催の「霊仁耶登山の計画」を小島に送付している。

日程…八月九日午前八時タコマ停車場に集合、タコマ・イースタン鉄道で六〇マイル移動、午前十一時アシュフォード着、馬車で二四マイル移動、午後一時半ロングマイア・スプリングス着（二軒の宿屋あり）、ここから徒歩（馬手配の場合三ドル）七マイルでキャンプ・

オブ・クラウド着泊、八月一〇日午前二時キャンプ発、正午山頂、午後四時にキャンプ着泊、八月一日午前八時キャンプ発で帰市
旅費…一人あたり少なくとも二〇ドル

服装…厳寒に耐えられる毛織物、特に靴下は厚手毛織物、黒眼鏡二五セント、革製手袋、グリースペイント、ロープ一卷、アルペンスティック（登山杖一ドル二五セントでシアトルのハードウェア商会で販売）、キャンプ脚絆、毛織りアンダー物、毛織りの極めて厚きモンキーシャツ、またはオバーシャツ、靴（軽き物を選びハーフソールを打ち裏に裏面にチールを打付べく）
レーニア山（写真2）は一八九九年に国立公園となり、タコマ・イースタン鉄道は一九〇六年秋に公園入り口最寄りのアシュフォードまで延伸し、所要時間は三時間、運賃は六ドルであった。一九〇七年には一九キロ先のロングマイアまでの自動車道が完成し、一九〇八年から自動車の通行料金五ドルを徴収した。

ロングマイアには、一八九〇年に「ロングマイア・スプリングス・ホテル」が開業し、一九〇六年にはタ



写真2 レーニア山（著者撮影）

コマ・イースタン鉄道が「ナショナル・パーク・イン」を開設した。キャンプ・オブ・クラウドは、一九一六年にキャンプ・ミューアと改称されたが、標高三、〇五mに位置し、標高八二四mのロングマイアから徒歩で到達するのは強行軍である。

遠藤は費用や装備について詳述しているが、これが山岳誌へ最後の投稿であり、この登山計画が実現したのか不明である。一方で、同年七月に東良三はYMCAの登山グループの一員としてレーニア山に登頂し、後に小島や志賀重昂などの案内役も務めた。

おわりに

小島は一九一五年七月にサンフランシスコに到着し、横浜正金銀行口サンゼルス分店長として着任した。そのころ、アシュビルに到着した遠藤はグローブ・パーク・インで働き始めている。山岳誌一九二〇年八月号の会籍削除の欄に遠藤章二が掲載され一九二五年の官報には遠藤章二の失踪届が載っている。

小島は大恐慌が始まった一九二七年に帰国したが、そのころマサチューセッツの遠藤は、グレート・スモーク・山脈国立公園設置運動に邁進し、一九三三年に肺結核で亡くなる直前には、第三代国立公園局長とな

るカプラー（Arno B. Cammerer）から「最高の岳人（The Best Mountaineer）」と称えられた。一九六一年には公園内の一ピークが遠藤の功績を称えて「マサ山（Masa Knob）」と命名され、二〇一八年にはアパラチアン・トレイルの殿堂入りした。

注

- (1) McGue, J.; Bonesteel, P. (2024) George Masa: A Life Reimagined. Smokies Life.
- (2) 小島烏水（一九〇九）会員登山報、山岳、四（三）：一五五～一五六。
- (3) 南川金一（二〇〇七）創期会員名簿に見る創立期まもない山岳会、日本山岳会百年史未編P一八五～一九六所収。
- (4) 小島烏水（一九〇六）会員動静、山岳、一（二）：一五八～一五九。
- (5) 日本山岳会百年史編纂委員会編（二〇〇七）日本山岳会創基会員名簿（登載者、日本山岳会百年史資料編）A一六九～一九六所収。
- (6) 小島烏水（一九〇七）会報、山岳、二（二）：一四二。
- (7) 小島烏水（一九〇九）会員登山報、山岳、四（三）：一五五～一五六。
- (8) 小島烏水（一九一〇）山岳会第三大会陳列品短評、山岳、五（二）：一四六～一四八。
- (9) 小島烏水（一九一〇）書東及びハガキ・霊仁耶登山の計画、山岳、五（三）：一九四。
- (10) 東良三（一九四六）アメリカの山旅、山と溪谷社。
- (11) 小島烏水（一九二〇）会籍削除、山岳、一五（二）：一一八。
- (12) 官報三七四三三号P三六三 失踪に関する届け出の報告。

伊藤 太一 ● いとう たいち

静岡市在住。五月二三日にレーニア山国立公園を訪れ遠藤の足跡をたどった。